「家族統治システムにおける」家族ガバナンスの枠組みにおける叔母・叔父の役割についての考察

家族が円滑に自らを統治しようと努める中で、家族同士が築く多様な関係を深く考察するにつれ、姪や甥が立派な家族の一員へと成長する過程において、叔母や叔父の役割がいかに重要であるかを、ますます強く実感するようになった。 本稿では、なぜこの叔母・叔父による育成プロセスが、若者たちの人生においてこれほど重要となるのか、私の考えを述べる。また、叔母や叔父が果たす重要な役割が認められることが、家族の成功にとっていかに不可欠であるかについても論じる。

人類学の研究によれば、部族社会において、少年や少女が思春期を経て成人期に入る際、多くの場合、少年の叔父や少女の叔母がそれぞれの甥や姪の世話を引き受け、部族内での大人の役割に備えさせる。こうした社会も、現代社会と同様に、子どもが個性を確立し、大人として自立するために自然に親元を離れていく過程において、親と子の間に正常かつ健全な葛藤が存在することを認識している。こうした葛藤があるため、子どもが社会で大人の役割を果たすために必要な準備を、親だけで効果的に成し遂げることは極めて困難である。部族社会は、叔母や叔父との血縁関係（結局のところ、彼らは私たちのそれぞれの親のDNA）を等しく共有していることから、強い絆が生まれ、彼らが私たちをうまく導いてくれるだろうと直感している。この考えをさらに一歩進めると、一部の生物学者や心理学者は、上述のように私たちが互いの遺伝子プールの相当な部分を共有しているため、叔母や叔父と甥や姪の間で、私たちが「利他主義」と呼ぶ感情が、親と子の間とほぼ同程度に強く働くと考えている。 これらの科学者たちは、生命とその多様な種が繁栄し続けるための手段として、私たちの遺伝子を次世代に受け継がせたいという、信じられないほど強い本能が、自然によって私たち一人ひとりに組み込まれていると信じている。このような強力な生物学的現実と、それに伴う様々な心理学的現実を鑑みれば、叔父や叔母が甥や姪にとって優れたメンターとなり得ることは

叔母や叔父が甥や姪にとって優れたメンターとなり得ることは、驚くべきことではない。また、これは、現代の科学的手法を持たなかった私たちの部族の先祖たちが、なぜこの結論に至ったのかという点についても、驚くべき洞察を与えてくれる。

姪や甥が部族の成人メンバーとなる実際の過程において、私たちは、子供時代から成人期への移行を成功させる上で、儀式が果たす役割に直面する。 あらゆる部族社会において、少女が女性へ、少年が男性へと移行する過程には、通過儀礼が伴います。これらは、少女や少年に対してこの移行の重要性を認識させるとともに、彼らが成人として部族の生活や統治における義務と責任を十分に果たせるよう準備を整えるものです。前述の通り、成人への重要な移行期において彼らのメンターとなるのは、多くの場合、叔母や叔父たちです。

現代において、少年や少女の人生におけるこうした重要な変化の出来事が、純粋に身体的な出来事以外のものとして認識されることは稀であるというのが、私の経験である。私は

男性である私には確かなことは言えませんが、家族の中の女性たちは、少女が女性へと成長する過程で、確かに特定の助言や、いくつかの儀式や式典を授けていると信じています。また、発達心理学に関する多くの書籍を読んで得た私の印象では、少女たちは、心理的な意味での完全な大人としての女性へと、

容易に、かつ迅速に、成人としての完全な心理的意味において女性になっていくようです。おそらくそれは、女性の知の在り方や教え方が、女性の発達過程により適しているからでしょう。私自身の臨床経験や、多くの同僚からの逸話から確かなのは、私たち全員が、40代や50代の「少年のような男性」をクライアントとして抱えているということです。社会がこの問題を議論する際、「すべての男性は心の奥底では実は小さな男の子だ」と笑い飛ばすような態度で、私がこの話題を冗談めかして語っているわけではないことを断言します。 残念ながら、私の直接的な経験から言えば、私たちの社会は、生物学的な意味以外では決して「男」になれない多くの男性を生み出しています。では、私が「男」をどう定義しているのか、と問われるかもしれません。それは極めて単純で、自分の行動に対して断固として責任を負う覚悟のある成人男性のことです。「もし〜なら」や「しかし」といった条件はなく、ただ「私は自分の

行動に責任を負う」という姿勢です。彼は、自分の行動を他人のせいにすることもなければ、被害者ぶることもない人物です。 なぜ、人間の発達過程とその多くの段階についてこれほど多くの知識があるにもかかわらず、私たちの社会は「男」を育てられず、代わりに「永遠の少年」を生み出しているのでしょうか？この問題の多くは、現代社会における儀式の欠如に起因しており、さらに言えば、成熟の過程で伝統的に叔父たちが果たしてきた極めて重要な役割が失われたことに起因していると思います。私の

見解を裏付ける証拠として、

かつての社会がこの過程にどのような儀式を用意していたのか（もしあったならば）を見てみよう。かつては、少年が狩人として初めて獲物を仕留める儀式や、必須のビジョン・クエストがこの過程を果たしていた。また、叔父やそれに相当する者たちから大人の役割や責任を教え込まれる間、部族から形式的に隔離される期間もあった。特定の部族社会では、少年たちは一晩埋葬されることもあった。

翌朝、少年が新たな名前を持つ男として再登場し、生まれ変わることは、成人への通過を象徴する外的なしるしであった。現代社会では、軍隊への参加、大学への進学、スポーツ活動、そして特に叔父たちの指導下で行われる男性限定の活動が、この目的を果たしていた。 今日、ほとんどの少年たちの生活において、こうした出来事は一切起こらない。ごく稀にそうした出来事が起こったとしても、それは少年を成人への通過儀礼へと導く重要な儀式としてではなく、むしろ軽い遊びや過度な自己満足のための行事として見なされている。さらに稀なことに、少年たちが成人への通過儀礼を乗り越えるのを助ける目的で、叔父やそれに相当する者たちによってそのような行事が執り行われることなどほとんどない。 私たちの社会が近代化するにつれて、人間の発達過程における儀式の重要性が軽視されつつあるように見えることに、私は深い懸念を抱いている。私が言いたいのは、陳腐で時代遅れの象徴を復活させるべきだとか、徴兵制や、さらにはそれ以前の民兵制度を再開すべきだと言っているわけではないことを、どうかご理解いただきたい。 私が単に指摘したいのは、儀式のない生活は私たち人類にはふさわしくないということです。具体的には、そのような生活は、社会を構成する個々人に、大人になるという過程を理解するために必要な手段を与えないままにしてしまうのです。もし現代社会が、現代的な儀式を通じて、その旅路における重要な分岐点を理解するために必要な「決定的な区切り」を提供してくれれば、多くの人が成人へと移行する上で助けられると私は信じています。私は

特に、少年が男性へと成長するプロセスに関して言えば、社会の進化の現段階において、このことは真実であると確信している。

著名なオランダの歴史家であり哲学者であるホイジンガは、『ホモ・ルーデンス――文化における遊びの要素の研究』[1]という著書を執筆した。ホイジンガの主張によれば、私たちという種を他のすべての種から区別する唯一の特徴は、創造的に「遊ぶ」ことにある。ホイジンガは私が提唱するような儀礼の活用については言及していないが、遊びとその結果を通じて、私たちは学び、成熟するという点では彼に同意する。どうかご理解いただきたいのは、

フイジンガの「遊び」に対する見解は、私たちの好奇心や創造性が働いているあらゆる活動を網羅していることをご理解ください。彼が言及しているのは、私たちが「遊び」と結びつけるような余暇活動ではな

く、むしろ私たちという

種として、いかにして、そしてなぜ繁栄するかという深い哲学的視点に立っているという点では、彼に同意します。興味深いことに、かつての多くの家庭——私の家庭も含めて——では、遊びの最高の瞬間は叔父や叔母たち、特にドロシー、ドローテア、マルグレタの各叔母たちと過ごした時に訪れました。こうした遊びの瞬間において、私は他のほとんどの時よりも人生について多くを学んだと信じています。 確かに、こうした瞬間から得た報酬——良い面も悪い面も——は、今も私の記憶に鮮明に残っている。おそらく、こうした特別な体験こそが私の好奇心を掻き立て、この「省察」へと導いたのであろう

この「考察」のこの段階で、すべての少年少女が確実に子供時代から大人へと移行できるよう保証する、叔母や叔父が関わる2、3の「儀式」を挙げることができれば、これほど嬉しいことはないでしょう。残念ながら、愛情深い親や祖父母として、また支援の専門家としての私の立場から言えば、その答えが分かればと願うばかりです。 前述したように、このプロセスにおいて少女たちは少年たちよりも大きな成功を収めているように見えます。おそらく、彼女たちのプロセスを研究することで、答えが見えてくるのでしょう。私は、叔母や叔父たちが、人類の成功における「遊び」の役割に関するホイジンガの卓越した洞察に基づいた現代的な儀式を用いて、このプロセスにおける伝統的な役割を再び果たすようになれば、良い結果が得られると確信しています。 世界人口の爆発的な増加によって提起される、前例のない新たな課題に直面しなければならない人類の歴史のこの時点で、私たちホモ・サピエンスが地球に対する責任を果たすためには、すべての個体が成人期へと無事に移行する必要があります。その責任は、真の大人だけが担うことができるものだからです。

これらの考えに賛同されるかどうかは別として、この「省察」を通じて、子供時代から成人期へと至る人生の重要な節目において、叔母や叔父が果たす重要な役割を改めて認識していただければと願っています。 特に、社会における少年や若い男性たちの状況に思いを馳せ、それぞれのやり方で彼らが「男」として成長できるよう手助けしてくださることを願っています。私たちの社会は過去30年間、女性のために並外れた成果を上げてきましたが、まだ進むべき道は長いです。今こそ、男性に対しても同じことを成し遂げ、その過程で、人類のすべての構成員に、真の大人だけが享受できる「生涯学習」の生活を送る能力を十分に備えた個人となるという贈り物を提供できるかどうか、考えてみましょう！

その一方で、甥や姪が大人へと成長する過程で、さまざまな儀式を行ってくださっている、そしてこれからも行ってくださる叔母や叔父の皆さん一人ひとりに、心から感謝申し上げます。

Copyright & copy1999 by James E. Hughes, Jr., Esq

---

[1]フイジンガ、ヨハン。*『ホモ・ルーデンス：文化における遊びの要素に関する研究』*、ビーコン・プレス、1986年。